

Notice

## 世界的に注目されるペロブスカイト太陽電池を テーマにフォーラムを開催(予告②)

…実証実験のメンバーである篁直樹さんのご講演…

5月18日(土)に「フォーラムPVかながわ2024」を開催します。今回のテーマはペロブスカイト太陽電池(PSC)に関してです。

横浜市では2023年2月に桐蔭学園とPSCの実証連携協定を締結し、PSCを活用した脱炭素社会の実現への取り組みを開始しており、3月27日(水)には桐蔭学園にて、PSCの可能性を市民と考える「ペロブスカイト太陽電池フォーラム」が開催され、第106号で紹介した桐蔭横浜大学特任教授 宮坂先生より「日本初の新エネルギー技術、海外との産業競争にいかにして勝つか」の講演があった。その中で、「ペロブスカイトはシリコンには出来ない使い方が出来る。部屋の中とか、窓とか、曇った日や雨の日も、屋内でも発電できるし、机くらい大きいモジュールでも500グラムしかない。材料は安くて、しかもほとんど国内で調達できる。これ、他にありますか。だったら、まず作り始めて、使っていく中で、材料をアップデートするなどして性能と耐久性を上げていく。そうやった方がユーザーの獲得にも用途開発にもいいと思うのですけれど、どうですか?」のお言葉があり、非常に感銘を受けた。



篁直樹さん

「フォーラムPVかながわ2024」では、宮坂力先生に加え、実証連携協定の横浜市側メンバーである篁直樹(たかむらなおき)さん(左写真)に、PSCの利用方法に関して講演をしていただく予定です。

篁さんはNPO法人グリーンパワーファクトリーの代表理事で、再生可能エネルギーのコンサルタントとして、ソーラーパワートラック(下写真参照)という独立電源を利用し、日常だけでなく非常時にも役立つフェーズフリーデザインの電源供給を活用した企画を実現している。

PSCに関しては、実証連携協定のメンバーとして、新しい太陽電池の利用方法を提案している。今までは太陽電池は屋根に載せるものとして利用されることが多かったが、これからは曲面や壁面、布面などにも貼り付けが可能となり、新たな市場が作り出されることが期待される。

フォーラムの案内はPV-Net本部のホームページ(<https://www.greenenergy.jp/5987/>)にも掲載されているので、ご参照の上、お申し込みください。

(田辺記)



ソーラーパワートラック(トラックの荷台に5kWのPVを設置)

### 世話人から

#### 連絡事項

5月25日(土)の埼玉地域フォーラムでは、蓄電池に関する集中講演を行い、神奈川県地域世話人の藤本氏も登壇します。ご興味のある方は以下をご参照ください。

<https://pvsaitama.jimdofree.com/%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B/>

#### 今後の予定

「フォーラムPVかながわ2024」

日時:5月18日(土)

14時 ~ 16時30分

会場:オンライン(Zoom)開催

申込: [keitnb@asahi.email.ne.jp](mailto:keitnb@asahi.email.ne.jp)へ

「横浜開港祭」

参加日時:6月2日(日)10時開始

会場:横浜臨港パーク

内容:ソーラーパタを作って遊ぼう(開港祭は6月1日も開催)

「さがみはら環境まつり」

日時:6月23日(日)10時~16時

会場:青山学院大学相模原

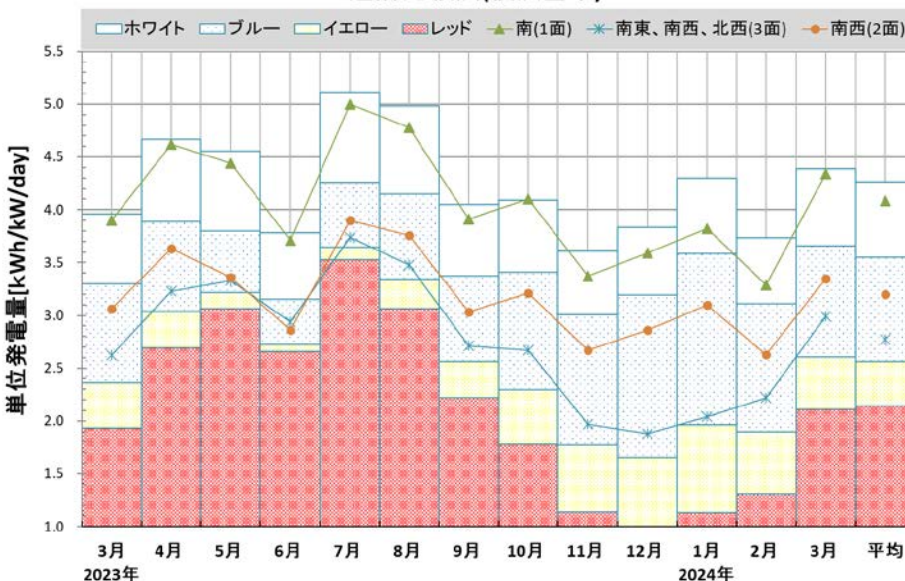
キャンパス E棟F棟ほか

内容:ブース出展・講座実施



## 今月の単位発電量!

EPC近隣比較法(横浜基準)



横浜の3月の日照時間は、平年比約+16%で、発電量も多めではないでしょうか。気象庁によると「天気は全国的に数日の周期で変化したが、東・西日本では低気圧や前線の影響を受けやすく、大雨となった所もあり、東日本太平洋側では月降水量平年比が170%となり、1946年の統計開始以降で3月として1位の多雨となった。また、上旬を中心に西高東低の気圧配置の影響も受けた東日本日本海側の月間日照時間は少なかったが、東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側では平年並だった。月平均気温は、上旬と下旬のはじめを中心に西高東低の気圧配置となり、寒気が流れ込みやすい時期があったが、そのほかの時期は暖かい空気に覆われやすく、下旬の中頃以降は暖かい空気が流れ込む時期もあったため北・西日本で高かった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。

平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもあります。レッドが続く場合は、メーカーなどに相談することをお勧めします。

※近年の太陽光システムは均質化や効率改善が進み、2000年初頭の物に比べ、実発電量が10%以上多くなることもあるので、補足としてホワイトを設けました。

